

晴れた雪みちどこでも行ける

★ ^{Am} 雪で埋もれた林の道を
^G ひき足元見ながら登る
^D 靴についたワカンのスキマから ^{Em} 弾ける雪
^{Am} 踏みしめるたび えられる音
^G その雪をまた 踏みしめるたび
^D しほらく続く静かな空間に ^{Em} 響きわたる **

^G これは冬のある夜 ^{Em} ふしぎな靴を見た
^{Am} 45年前の自分 ^D に戻っていた
^G 足元の ^{Am} 白い世界 ^C 又しぶりの ^D 感触 ^G

^{Em} 明るくなってふと ^C 気がつく
^D 抜けた林に ^G 広がる
^{Em} 青白い空と ^C 光る大地
^D 思わず立ち止まり ^G 見渡す

晴れた雪みち行きたいところ

リズムをつけてどこでも行ける

先ほどまでのえられる雪の音も聞こえない...

そのうち急な登りになって

押し当て登る膝小僧には

雪がセキに柔らかくあたたかく感じるようになった

気がついたらそこはくだけり坂

松葉たしつし混ざる白い道

足跡消してはがらしゃがして滑ってた

これはおまの自分の足跡かな

滑り切って前を見る

その頃の音の今はもうない...

元谷小屋が待っていた

★ ~ ★★